

第17回京大若手会 年次総会・講演会

総会新役員3名の任命で経営陣大幅増強 講演会 中身の濃い講演が参加者を魅了



2018年9月8日(土)、東京都文京区の文京スポーツセンターにおいて、京都大学若手会第17回年次総会講演会が開催された。京都大学若手会は、満四十五歳以下の京都大学卒業生、修了生で構成され、今回は来賓を含めて四十九名が参加。運営は松成理事が主担当役員、石川理事が副担当役員として担当した。

茗荷谷駅からほど近い会場に続々と集まる参加者達。5名程度の島に分かれて着席すると、同じ京大卒という気安さもあり、初対面でも話が弾み、開会の時間を迎えた。まず、ジーコ会長から、若手会の設立趣旨が説明された。続いて、京都大学と学士会から祝辞を頂き、その後、三菱電機の社長、会長を歴任し、現在は経団連の副会長をも務められている山西氏の講演会、さらにグループディス

カッションが行われた。その後の懇親会では、参加者が相互交流しながら得点を競うトレジャーハンティングゲームも行われ、参加者は単なる「講演会」や「同窓会」では得られない充実した時間を共有した。



△若手会)ジーコ会長

京都大学と学士会から祝辞



△学士会)村松氏 △京大)荒木氏

今回の年次総会講演会は、京都大学同窓会と一般社団法人学士会の共催で開催された。開会に先立ち、京都大学総長特別補佐の荒木茂氏、一般社団法人学士会会員支援課課長の村松健一氏より祝辞が送られた。荒木氏からは、大学の連携担当として、またアフリカなど世界をフィールドに活躍する土壤学者として、世にある同窓会組織と異なり、京都大学の自由

な校風を活かした独創的な会だとして評価いただいた上で、今後は世界を目指して欲しいとのエールが贈られた。村松氏からは、大学の仲間たちが集まり交流すること、リーダーシップを発揮する形を作っていくことは大切である、本日の講演のテーマでもある「リーダーシップ」にも通じる祝辞をいただいた。

▽講演に聞き入る参加者達



講演会

リーダーの要件

変化への対応力強化

三菱電機株式会社特別顧問である山西健一郎氏を招いての基調講演が行われた。山西氏は、リーマン・ショックの直後から、連結従業員数14万人を率いて持続的な成長路線を支えた、経済界のトップリーダーである。講演では、リーダーに必要な資質を解説。それは、闘争心と情熱、「人間の魅力」「専門性」と見識、そして「不条理」と上手く向き合う力であるとのこと。座右の銘である孔子の言葉「君子固より窮す。小人窮すれば斯に隘る。」(トップは日々自分を追い込んで覚悟ができていて、覚悟ができていないものはピンチの時に取り乱す)を今後のリーダー候補へ向けたエールとして贈ってくださいました。



▽講演を行う山西氏

華麗な経歴から想像するのとは全く異なり、柔和な語り口から繰り出される内容の濃い講演に、参加者はぐい引き込まれた。日本の産業育成の方向性としては、高度な技術力をさらに強くし、コンセプト提案型の

新役員誕生

今回の年次総会で、幹事団長露田氏、副団長の沖元氏と平井氏が役員に就任した。役員数は大きく増えた。

新役員露田氏

新役員平井氏

学士会入会補助

当日は学士会の入会申込ブースも設置された。学士会の充実したサービス(勉強会など各種イベント)や福利厚生サービス(なんと!)に加え、若手会の史上最高の3千円/人のキャッシュバックの後押しもあり、6名が入会し、新たな縁を紡いだ。

賛助会員認定

早稲田大学出身の佐藤氏が新たに加入。若手会の参加者と楽しく交流いただいた。

講演者来歴 山西健一郎氏

- 73年 京都大学工学部 化学工学科卒業
- 75年 京都大学工学部 機械工学科卒業
- 三菱電機株式会社入社
- 03年 生産技術センター長
- 06年 常務執行役員 産シス(本)本部長
- 10年 代表執行役員 行役社長
- 14年 取締役会長
- 18年 特別顧問

活発な議論と交流

グループディスカッションとトレジャーハント

参加者同士の親交深まる

グループディスカッション

講演会後には7グループに分かれ、講演内容について参加者同士が議論し、山西氏に対する質問をまとめた。それぞれ異なる職業、年齢の参加者が集まっているため、議論百出。自分とは違う視点を持った参加者と議論し、質問をまとめる作業は創造的との声が続出。山西氏は、一つ一つの質問に真摯に対応され、参加者一同、講演内容への理解が進んだ。



懇親会



グループディスカッション後は、各自協賛で提供いただいた青島ビールを手に取り、松成役員がスタート。多種多様な参加者の活発な交流が見られた。お子さんが小学生になるのを期に奥様が再就職するが悩んでいる方が、ワーキングマザーの参加者から経験談を聞くシーンや、海外で活躍している研究者から、日本人研究者は優秀だからもっと海外に行くべきだという熱い意見を聞くシーンなどが見られ、良い刺激となったことだろう。

“学生時代を思い出す!”

今回の余興はトレジャーハント。予めランダムに印字された20個のお題について、1つにつき2名からサイン(Yes回答)をもらうゲームである。青島ビールでほろ酔いの中、スタート。「京大構内で寝泊まりしたことがある」「京大名物の立て看をつくったことがある」といった京大ならではのお題や、「5店舗以上の天下一品で食べたことがある」という京大生なら当然Yesのお題、「いまこの場で入試を受けて京大に合格する自信がある」という無謀なお題まで様々なものが入り交じっていたが、参加者は学生時代を思い出しつつ、これをネタに大いに交流を深めた。

トレジャーハント

二次会も盛況

交流会の興奮冷めやらぬ参加者達は、茗荷谷駅にほど近い居酒屋に移動。飛び入り参加も含めて半数以上が二次会に集結し、さらに交流を深めた。中盤では参加者全員の自己紹介が。企業家から、働きながら小説家を目指す人、考案した薄型財布をアピールする人、中には、交通事故で脳障害が残り、リハビリを兼ねて参加した人も。締めは、幹事団副団長の沖元氏。



△京大交響楽団仕込みの生演奏が、参加者の交流に花を添えた

“初の試み、生演奏”

結果発表では、あるところか、余興担当幹事尾西氏自らダントツの得点で優勝してしまおうというハプニングが。決して出来レースではありませんとは本人談。余興で賞を取った方への賞状授与の音楽は、なんと生演奏!あの賞状授与で流れる曲(勇者は還りぬ、得賞歌とも呼ばれる)を、京大交響楽団だった尾西氏と大野氏がドラムパッドで生演奏。京大生の多才さを、参加者みんなが実感した。

▽交流はさらに続いた...



京大特有の緩い感じで、これからも続けていきまじょうとの挨拶に多くの参加者がうなずいた。

幹事団紹介(15名)



松成 (主担当役員)



石川 (副担当役員)



霧田 (団長)



沖元 (副団長・広報)



尾西 (名簿・余興)



平井 (広報)



宇佐美 (司会)



大野 (司会・新聞編集)



新井 (余興司会)



加藤 (受付)



三宅 (新聞編集)



福永 (写真)



宮崎 (写真)



丸野 (写真)



中安 (ビデオ・二次会司会)

今後の予定

- ◆10月27日(土)七大学若手会 年次総会・講演会
- ◆11月17日(土)若手昼食会
- ◆11月24日(土)感謝祭
- ◆12月2日(日)若手昼食会
- ◆12月15日(土)若手クリスマスパーティー



若手会 だより

役員懇親会を開催 気になるイベントも続々

文京区に、プチ貢献

幹事たちの印象に残った出来事

ジコ会長が今回の総会のポスターに入れた開催場所の番地が間違っていると、松成理事から指摘があった。文京区スポーツセンターのホームページからのコピペなので間違っているわけがないと思い、問い合わせたところ、なんとホームページ掲載の番地が違うことが発覚!

担当者は慌てて謝罪し、すぐにホームページは修正された。今年の6月末にリニューアルオープンしたばかりの新しい会場であったことに伴うミスと思われる。多くの文京区民が道に迷う前に情報が修正され、結果として、我々は思わぬ形で文京区に貢献することになった。